

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

おかもと やすたか
岡本 康孝 (さけますセンター 業務推進部)

2006 年の北太平洋

漁獲数

第 15 回 NPAFC 年次会議における各国の報告によると、2006 年 1-12 月の北太平洋の漁獲数は 3 億 8,872 万尾で、前年の 4 億 9,139 万尾より 21% 減少しました (図 1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い 2 億 2,553 万尾で全体の 58% を占めており、前年の 3 億 4,397 万尾に比べ 34% 減少しました。次いでサケが 1 億 135 万尾 (構成比 26%, 対前年比 115%), ベニザケが 5,513 万尾 (構成比 14%, 対前年比 108%) と続き、これら 3 魚種で 98% を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ 541 万尾 (対前年比 89%), 130 万尾 (対前年比 64%) でした (図 1A)。

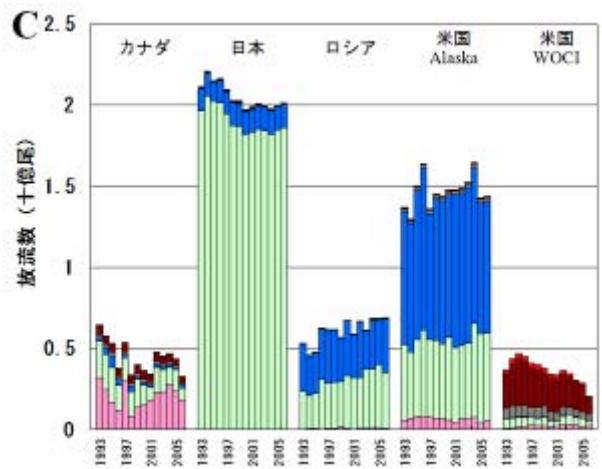
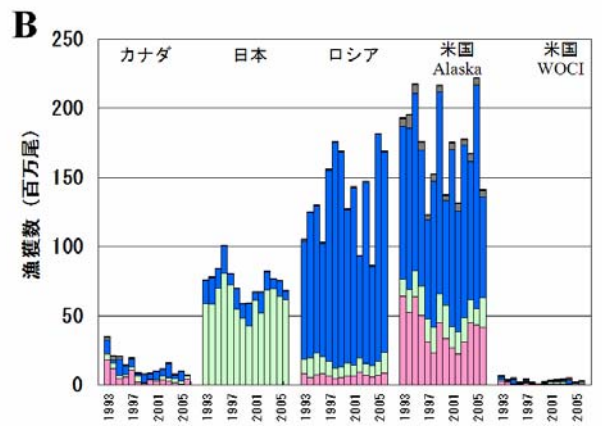
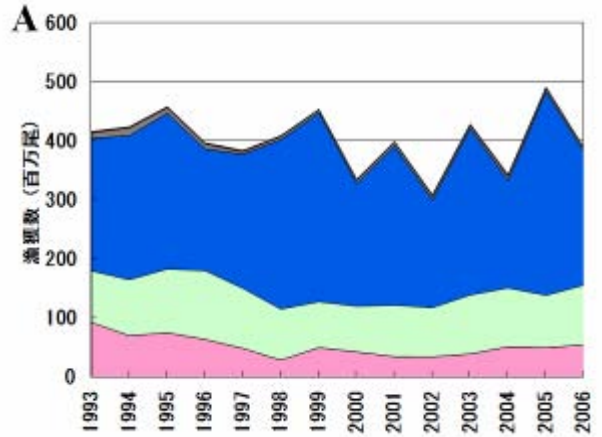
地域別では、ロシアが 1 億 6,905 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 1 億 4,108 万尾、日本 6,842 万尾、カナダ 734 万尾、WOCI 283 万尾、韓国 2 万尾と続いています (図 1B)。

人工ふ化放流数

2006 年 1-12 月に人工ふ化放流された幼稚魚数は 46 億 8,152 万尾で、前年の 48 億 4,660 万尾に比べ 3.4% 減少しました。

魚種別ではサケが 28 億 6,254 万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの 13 億 658 万尾と合わせると全体の 9 割近くを占めます。

地域別では日本が 20 億 1,645 万尾と最も多く、以下、アラスカ州 14 億 3,610 万尾、ロシア 6 億 8,980 万尾、カナダ 3 億 2,778 万尾、WOCI 2 億 414 万尾、韓国 725 万尾と続いています (図 1C)。



■ 魚種未報告 ■ ベニザケ ■ サケ
■ カラフトマス ■ ギンザケ ■ マスノスケ
■ スチールヘッド ■ サクラマス

図1. 1993-2006年の北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数 (A)、地域別魚種別の漁獲数 (B) 及び人工ふ化放流数 (C)。1993-2004年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが、2005年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である。1998年までのロシアにはEEZ (排他的経済水域) で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともわずかなため、図では省略している。

2007年度の日本

サケ

2007年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は12月10日現在で6,543万尾、前年度同期比98.5%となっています（図2）。来遊数の年変動をみると、1996年度に過去最高を記録した以降、4年連続で減少しましたが、2000年度を境に増加傾向に転じ、近年は高水準で推移しています。採卵数は12月10日現在で20億4,268万粒を確保し、放流数もほぼ計画どおりの18億2,220万尾程度となることが見込まれます。

カラフトマス

主産地である北海道における2007年度来遊数は1,484万尾で前年度比267%と大きく増加しました。カラフトマスの来遊数は1994年に急増して以来、隔年の資源変動を示し、1994-2002年の偶数年級群での平均が1,500万尾、奇数年級群のそれは700万尾で、両者にはおよそ2倍の開きがありました。しかし、2003年からその傾向が崩れ、豊漁年と不漁年の順序が逆転しているように見えます。2007年度についても1994-2002年という奇数年にあたる年でありながら、偶数年の昨年よりも多い来遊数となりました。なお、採卵数は1億7,518万粒でほぼ前年と同数なので、放流数も前年並みの1億4,000万尾程度となることが見込まれます（図3）。

サクラマス

2007年度の北海道における河川捕獲数は10,381尾で前年度比84%と若干減少しました。採卵数は514万粒で前年よりも約100万粒増加しました。なお、本州の資源については現在調査中です（図4）。

ベニザケ

2007年度の河川捕獲数は989尾で前年度比99%となり、昨年に引き続き高い値となりました。採卵数は83万粒とほぼ前年どおりとなりました。当センターでは北海道の3河川（安平川・静内川・釧路川）でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます。

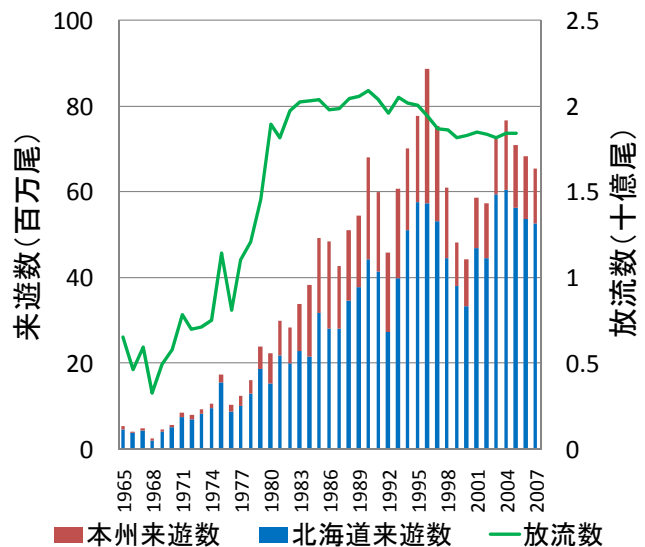


図2. 1965-2007年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2007年度来遊数は12月10日現在。

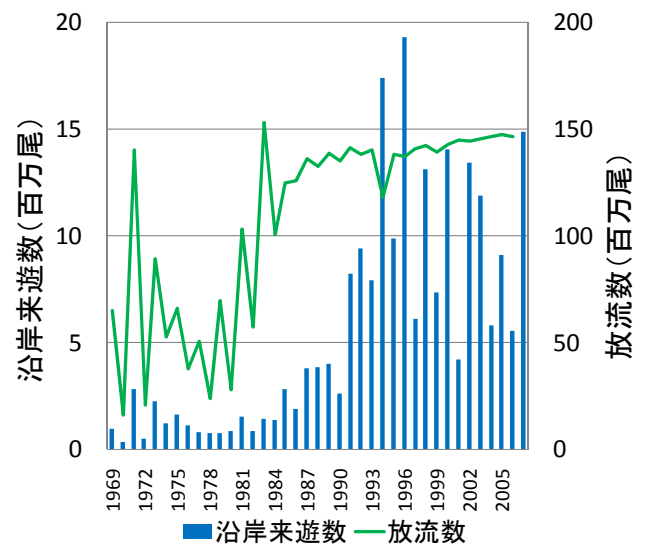


図3. 1969-2007年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

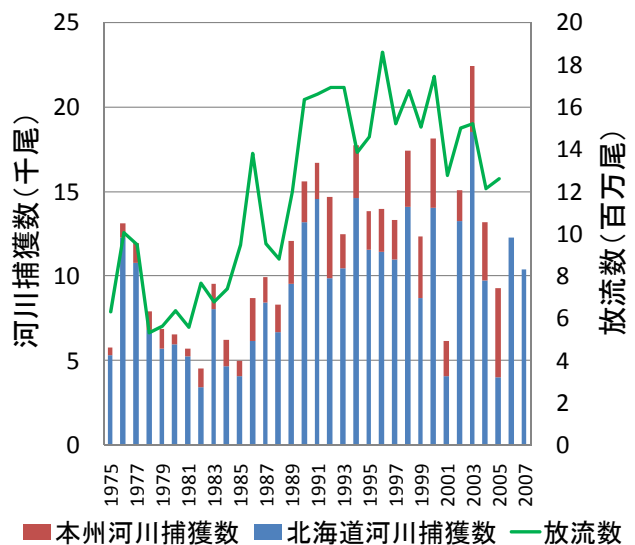


図4. 1975-2007年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。